

福音の園だより

平成十八年度「高齢者雇用優良事業所協会会長賞」受賞
TOSHIO『MY』のききまわりのんぐ 取材紹介施設

グループホーム・デイサービス介護保険事業者指定
350-0016 埼玉県川越市木野目一八七八番地一
特定非営利活動法人 福音の園・埼玉事務局
☎049-230-1111(FAX230-1112)

高校生・職場体験参加者の声

もっと一緒にいたかったと思いました

先日は大変お忙しい中、貴重な時間をさいていただき、ありがとうございます。職場体験に行くことと決まっていたのは、私みたいな未熟者が、お役に立てることがあるのだろうか、邪魔にはならないだろうかと、不安な気持ちでいっぱいでしたが、そんな不安を吹き飛ばすように、福音の園のみな様があたたかく迎えてくれて、充実した一日を過ごすことができました。

私の担当させていただいた2階フロアーのみな様は、すごく元気いっぱい、ボール遊びは、おじいさん、おばあさん達の元気についていくのが精一杯で、笑いすぎてお腹が痛かったです。元校長先生には、世の中について語っていただき、勉強になりました。一緒に食事までいただいて、時間が過ぎるのがあつという間で、もっと一緒にいたかったと素直に思いました。私にとっては、学ぶこと、教えられたことがいっぱいあり、これから生かしていこうと強く思いました。

＜埼玉県立川越西高等学校 一学年(当時) E・Nさん＞



運営理念説明

「裏を見せ、表を見せて散るもみじ」

グループホーム 福音の園・川越 ホーム長 杉澤卓巳
本日は、ようこそ起こし下さいました。ご家族の皆様を心から歓迎申し上げます。

二月一日、「デイサービス事業」を認可していただきました。朝、送迎車を運転してご自宅まで迎えに参ります。そして、午後四時ホームを出発して送り届けます。デイサービス開始にあたり、一つのエピソードを思い起こしました。ある家族の方がデイサービスを利用するにあたり、自宅玄関前には施設送迎車を停めないで欲しい。100mほど手前に停めてから迎えに来て欲しい。「医者のお親が認知症になって、老人ホームへ通っている」とご近所に知れたら世間体が悪くなるから。という内容でした。掲げている理念「心に触れる優しい支援の実践」「触れる」そのお心とは、正にご家族の中に潜んでいるに違いない「世間体」という恐れや負い目です。

郷里・新潟県に「出雲崎町」があります。大晦日十二月三十一日NHK『紅白歌合戦』に初出場するジェロさんの演歌は冬の出雲崎から見た日本海を歌ったものです。今から百五十年位前の人に「良寛」がいます。出雲崎町の大きな庄屋の家に長男として生まれ、やがて出家し、曹洞宗の仏門に入った。全国行脚した後、晩年を郷里で暮らした。やがて寝たきりになりシモの世話や食事介助を受けながら生涯を終えようとする時『裏を見せ、表を見せて散るもみじ』という辞世の句を遺した。自らの意思に反し否応無く見せざるを得ない裏の部分も含めて、信奉する仏様が全部を受け止めて下さっているという内容です。

私は、良寛辞世の句を高齢者福祉現場における基礎にまいりました。人生の第一線でバリバリと働いた表の部分だけでなく、病み衰えて人前に出したくない、出来れば隠したい裏の部分も見せざるを得ないという厳肅な現実と直面いたします。その時にご家族様が抱いておられる心の中のマイナス部分を、介護サービス事業者である私たちはしっかりと受け止めさせていただきます。ここに「心に触れる」具体的な「優しい支援の実践」があるからです。

次に「マイナス思考」を「プラス思考」へと変えられるように手助けして差し上げるのが、二つ目の「希望への支援の実践」です。当園パンフレットには『認知症になったら絶望』というあきらめを、「たとえ認知症になったとしても、ゆつたりと穏やかに暮らせる」という希望に変えたのがグループホームです。』と印刷しております。ここは「希望」の園です。

本日の「ファミリークリスマス会」も、ご家族の皆様お一人おひとりを、私たちスタッフ一同は、今申し上げたとおり心からお迎えしております。第一部「音楽会」、第二部「昼食会」を、最後までお楽しみ下さいますように。開催にあたり、歓迎のご挨拶とさせていただきます。

＜注・昨年の十二月二三日「第5回クリスマス会」で述べたものを掲載いたしました。＞

お知らせ 高校生・職場体験訪問

埼玉県立川越西高等学校様の、初めての取り組みに賛同。昨年十二月十七日、5名の女子生徒さんが職場体験訪問下さいました。半日(九時～十三時半)体験学習されたレポートを随時紹介してまいります。

来訪歓迎

ミサワホーム(株) 介護・福祉事業部様(東京都品川区 御礼) 菖蒲(菖蒲湯用) 萱沼寿会様(川越市萱沼)